

「仕方なく進学しても女の子はキャバクラに行く」

貧困対策会合で  
自民・赤枝氏発言

自民党の赤枝恒雄衆院議員(72)＝比例東京＝が12日、子どもの貧困対策を推進する超党派による議員連盟の会合で、奨学金制度の拡充をめぐり「仕方なく進学しても女の子はキャバクラに行く」などと述べた。会合では支援団体の代表や児童養護施設出身の大学生が奨学金制度の拡充を求め、それに対する質疑応答の冒頭で発言した。

赤枝氏は「高校や大学は自分の責任で行くものだ」という趣旨の主張をした。その上で「とりあえず中学を卒業した子どもたちは仕方なく親が行って通って通信(課程)に行き、やっばりだめで女の子はキャバクラ行ったりとか」と話し、望まない妊娠をして離婚し、貧困になると持論を展開。義務教育について「しつかりやれば貧困はありえないと言いたいくらい大事」と強調した。

赤枝氏は2012年に比例単独で初当選し、現在2

期目。産婦人科医で、会合終了後の取材に「子どもが十分教育を終えるまでは国が手厚く援助しないといけないが、高校も大学もみんなが援助するのは間違っている」と説明した。

(伊藤舞虹)